



# NEWS RELEASE

## 日本中からオルガンの専門家、愛好家が大阪に集結する日

昨年、いずみホールとしても日本オルガニスト協会関西支部としても初の試みとして実施したオルガン・マスタークラス。今年も開催します。昨年のマスタークラスでは、ヴォルフガング・ツェラーから約 45 分のレッスンを受けた受講生の演奏が大きく変化を見せました。専門家、愛好家からも大きな反響があり、再企画を願う声が多く寄せられていました。

その声にお応えし、今回はミラノ国際音楽アカデミーで教鞭を執るロレンツォ・ギエルミによるマスタークラスを開催します。世界各国から招かれるギエルミによる的確かつ細やかな指導に、期待が高まります。

また、同日の夕方からは、「バッハ・オルガン作品連続演奏会」の芸術監督を務めるバッハの権威クリストフ・ヴォルフによる講演会を開催します。シリーズ初回にも実施したヴォルフ教授による講演会は、非常に具体的でわかりやすく好評でした。今回はシリーズ最終回を記念し再来日、再講演となります。バッハの音楽人生とオルガン音楽との関わりについてギエルミの実演奏付で語ります。こちらもご注目下さい。

※翌 15 日にはロレンツォ・ギエルミのリサイタル バッハ・オルガン作品連続演奏会 vol.10 を開催します。

### **バッハ・オルガン作品連続演奏会〈特別企画〉芸術監督:クリストフ・ヴォルフ、礒山 雅**

#### **①ロレンツォ・ギエルミ／マスタークラス**

<日時> 2012年3月14日(水)10:00~17:00(予定)

<講師> ロレンツォ・ギエルミ <通訳> 廣野嗣雄(日本オルガニスト協会会長)

<内容> J.S.バッハ:《ライプツィヒ・コラール集》BWV651~668を題材に実施。

**NEW!!** ※受講曲目についての詳細は、次頁をご覧ください。

<聴講料> 一般¥1,000

日本オルガニスト協会・いずみホールフレンズ会員 ¥500

※事前申込み不要。当日直接会場へ。

#### **②クリストフ・ヴォルフ／講演会**

<日時> 2012年3月14日(水)19:00~

<出演> 講演:クリストフ・ヴォルフ(音楽学者/バッハ・アルヒーフ・ライプツィヒ所長)

礒山 雅/演奏:ロレンツォ・ギエルミ(パイプオルガン)

<内容> オルガンが中心—バッハの音楽生活を決定づけたあのこと、このこと

<料金> 無料(要・事前申込み:申込方法は次頁)

◆ チケットに関するお問い合わせ・お申し込みは「いずみホールチケットセンター」

TEL(06)6944-1188

◆ 公演内容に関するお問い合わせは「いずみホール広報担当:森岡・北嶋」までお願い致します。

TEL(06)6944-2828

< マスタークラス受講曲目 >

J.S.バッハ:《ライプツィヒ・コラール集》より

“いと高きところには神にのみ栄光あれ” BWV662

“いざ来ませ、異邦人の救い主” BWV659

“いと高きところには神にのみ栄光あれ” BWV663

“おお、神の小羊、罪なくして” BWV656

“われは神より離れまじ” BWV658

“バビロンの流れのほとりに” BWV653

“いざや もろびと 神に感謝せよ” BWV657

“来ませ、造り主なる聖霊の神よ” BWV667

※楽譜の用意はいたしませんので、各自ご準備下さい。

< 講演会申込み方法 >

【料金】 無料 (要・事前申込み)

※3/15の公演チケットお持ちのお客様、3/14のマスタークラスにご来場の

お客様は申込みなしで当講演会にご入場頂けます。

15日のチケットをお持ちのお客様は、必ずチケットをご持参下さい。

【応募方法】

往復ハガキに、ご住所、お名前(フリガナ)、性別、職業、電話番号、「クリストフ・ヴォルフ／講演会」希望とお書きの上、下記宛にお送り下さい。ハガキ1通につきお1人様ご招待。

定員(600名)になり次第、締め切りとさせていただきます。

〒540-0001 大阪市中央区城見1-4-70 いずみホール

バッハ・オルガン作品連続演奏会／講演会係

<プロフィール>

### **クリストフ・ヴォルフ Christoph Wolff**

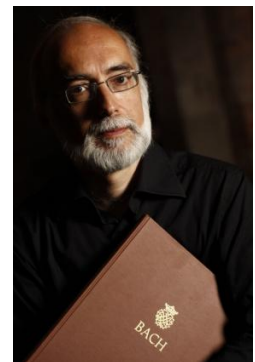
1940年、ドイツ生まれ。米ハーヴァード大学(マサチューセッツ州ケンブリッジ)音楽学主任教授、独フライブルク大学名誉教授、ライプツィヒ・バッハ・アルヒーフ所長。ベルリン、フライブルク、エアランゲン(1966年に博士号取得)で学んだ後、エアランゲン、トロント、ニューヨーク・プリンストンで教鞭を振り、1976年にハーヴァード大学着任。同大学で音楽学部長、図書館長代理、1992-2000年には芸術・科学大学院学部長を務める。アメリカ芸術科学アカデミー、アメリカ哲学学会、ライプツィヒ・ザクセン学術アカデミー、ザルツブルク・モーツァルテウム・モーツァルト研究アカデミー各会員、パッカード・ヒューマニティーズ・インスティテュート(カリフォルニア)理事。多くの学術賞を受賞しており、そのうちにはいくつかの名誉博士号、ロンドン王立音楽協会デント・メダル(1978年)、フンボルト研究賞(1996年)、ドイツ連邦功労賞連邦功労十字章(2001年)、王立音楽アカデミー・バッハ賞(2004年)がある。



近年の出版は以下の通り。『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ 学識ある音楽家』(ニューヨーク2000年、邦訳/秋元里予)、『ヨハン・ゼバスティアン・バッハのオルガン—ハンドブック』(ライプツィヒ、2006年)、『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ《ミサ曲ロ短調》ファクシミリ版』(カッセル、2008年)、『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ《ミサ曲ロ短調》』(カッセル、2009年、邦訳/礒山雅2010年春秋社)、『W. A. モーツァルト《魔笛》ファクシミリ版』(カッセル、2009年)、『幸運の門口に立つモーツァルト—皇帝に仕えながら、1788-1791年』(ニューヨーク、2012年、準備中)。

### **ロレンツォ・ギエルミ(パイプオルガン) Lorenzo Ghielmi**

イタリアのオルガンとチェンバロ奏者。ミラノ国際音楽アカデミーで教鞭をとり、聖シンプリチアーノ教会(アーレント1991年)のオルガニストを務める。ヨーロッパ、日本、アメリカなどで幅広くコンサート活動を行っており、ラジオ出演やCDレコーディング(テルデック、ドイツ・ハルモニア・ムンティ、アルス・ムジチ、ウィンター&ウィンター)も活発である。2005年に自ら結成した古楽アンサンブル、ラ・ディヴィナ・アルモニアによるCD、ヘンデルのオルガン協奏曲集 op.4 でディアパゾン賞を受賞している。



音楽学研究にも熱心に取り組み、16~17世紀のオルガン芸術、バッハ作品の解釈を研究し、イタリア音楽史上、最大のオルガニストと評されるフレスコバルディの作品を掘り起こして発表している。現在は、17世紀ドイツ・バロック音楽最大の作曲家兼オルガニストのひとり、ニコラウス・ブルーンズのオルガン作品について執筆中である。また、国際的なオルガン・コンクールの審査員として、マスタークラスの講師としてしばしば招かれている。

東京カテドラル聖マリア大聖堂の新オルガン建設のための芸術コンサルタントを務めた。

## 磯山 雅 Isoyama Tadashi

1946年、東京に生まれる。松本深志高校から東京大学に進み、同大文学部と大学院で、美学芸術学を専攻。1977年、国立音楽大学の専任教員となり、現在同大学教授。図書館長、理事を歴任。専攻は音楽美学・西洋音楽史で、とくにバッハ研究で知られる。1985年、『バッハ／魂のエヴァンゲリスト』（東京書籍、2010年講談社学術文庫として再刊）により、第1回辻莊一賞を授与される。他に『J.S.バッハ』（講談社現代新書）、『マタイ受難曲』（東京書籍、第9回京都音楽賞研究評論部門賞を受賞）、『バッハ／カンタータの森を歩むⅠ、Ⅱ、Ⅲ』（東京書籍）、『バロック音楽』（NHKブックス）、『モーツァルト／二つの顔』（講談社選書メチエ）、『バロック音楽名曲鑑賞事典』『モーツァルト＝翼を得た時間』（講談社学術文庫）、『救済の音楽』（音楽之友社）などの著作、N. ザスラウ著『モーツァルトのシンフォニー』全2巻（東京書籍）、C. ヴォルフ／T. コープマン編『バッハ＝カンタータの世界』全3巻（東京書籍）、C. ヴォルフ『バッハ／ロ短調ミサ曲』（春秋社）などの訳書がある。2007年より日本音楽学会会長。毎日新聞の音楽批評執筆者、大阪いずみホール音楽ディレクターとして、実践にもかかわっている。住友生命健康財団、日本ワーグナー協会、サントリー芸術財団理事。

